

―農場管理を“見える化”し、食の安全を確保する最新手法 GAP―

2012 年 GAP 普及大賞

「セブンファーム」と「顔が見える野菜。果物。」

の取り組みが受賞しました

日本 GAP 協会（理事長：木内博一）は、6 月 28 日に GAP 普及大賞の選考会を開催し、セブンファームの取り組みを含む 3 つの GAP 普及の優良事例を表彰することを決定しましたので、ご報告致します。

■受賞事例（流通企業との協業の分野）

「セブンファーム」と「顔が見える野菜。果物。」の GAP 普及の取り組み
＜受賞者＞株式会社セブンファーム

生産側と小売・流通側の共通理解のもと、高い安全性を確保するために積極的に GAP を活用している事例です。セブンファームは小売業（イトーヨーカ堂）が出資する農業の取り組みとして注目度が高く、JGAP 認証を取得する農場も増やしており、各種報道や講演などを通して GAP の重要性を全国に広めています。現在セブンファームは、北海道、茨城、千葉、埼玉、神奈川、愛知の 6 地域で環境循環型農業を実践し、地域農業への貢献に努めています。

また、セブンファームの取り組みと同時にイトーヨーカ堂のプライベートブランド「顔が見える野菜。果物。」の生産者の管理改善にも GAP が利用されており、より高いレベルの取り組みとして JGAP 認証を取得する農場も増えています。

生産側が GAP を導入して農場管理を改善し、それを小売・流通側がしっかり評価し、生販一体となって安全な農産物の生産・流通に取り組んでいる点を高く評価したいと思います。

本件は、GAP が新しい農業の姿にも適用できることを証明した事例であるといえます。

GAP 普及大賞は、今年一年間で最も GAP の普及に貢献した取り組み事例を表彰するものです。

2012 年 GAP 普及大賞の選考委員は次の通り。

中嶋康博（東京大学教授）、上杉登（全国肥料商連合会）

岩元明久（元農林水産省東海農政局長）

NEWS RELEASE

「セブンファーム」と「顔が見える野菜。果物。」の取り組みに加え、下記の2事例が同時に受賞しました。いずれも優劣付けがたいGAP普及の優良事例です。

■受賞事例（普及組織によるGAP普及の分野）

農業改良普及センターが中心となった北海道・上川管内のGAP普及の取り組み
<受賞者>北海道・上川農業改良普及センターと担当普及指導員 伊與田 竜

■受賞事例（資材関係者によるGAP普及の分野）

創業113年 肥料商「日の丸産業社」による北海道のJGAP普及
<受賞者>株式会社日の丸産業社と同社のJGAP指導員

以上、3受賞事例につきまして、下記のシンポジウム内で表彰式と受賞者による記念講演が行われます。ぜひご来場ください。

■シンポジウム「GAP Japan 2012」

日時：2012年7月18日 13時から17時

場所：東京大学 弥生講堂（東京都文京区弥生1-1-1）

関連ホームページ：http://jgap.jp/LB_06/index.html

問合せ先：佐藤 TEL 03-5215-1112 FAX 03-5215-1113 E-mail: info@jgap.jp

（取材を希望される場合は、下記を記入の上、FAXまたはE-mailで送付ください。）

御社名 _____ 部署名 _____ 御名前 _____

住所 _____ 電話番号 _____